

令和2年度 第1回 出雲市総合教育会議 会議録

日 時：令和2年（2020）9月23日（水）15時～17時

会 場：出雲市役所 3階 庁議室

出席者： 出雲市長 長岡秀人

出雲市教育委員 水陽子
錦田剛志
金築千晴
内藤祐馬

出雲市教育長 杉谷学

出雲市副市長 伊藤功 （オブザーバー）

教育委員会事務局

教育部長	三島武司
教育部次長	松浦和之
教育政策課長	常松博雄
学校教育課長	金築健志
児童生徒支援課長	兒玉浩二
教育施設課長	園山裕二
学校給食課長	石橋健治
出雲科学館長	矢田浩一
情報政策課長	三浦俊明
学校教育課主査	山本芳正
学校教育課課長補佐	岩崎慎一
教育政策課課長補佐	常松晃好（兼書記）

15：00 開会

（三島部長）只今から、令和２年度 第１回出雲市総合教育会議を開会します。開会にあたりまして、長岡市長がご挨拶申し上げます。

（長岡市長）皆さん、ご苦労様でございます。令和２年は特殊な年でございます、なんといっても、コロナウィルス感染症対策、小・中学校は、土・日・祝日を除いて１６日間の休業で終わったということで、結果的には、学校の休業が少なくてよかった、というような話ではあるものの、なかなかそう簡単な話ではないな、ということも、しみじみとわかったところでございます。

今なお、全国的には、学級単位でクラスター発生とか、いろんな話が出ております。「必要以上に恐れすぎない」ということと、「しっかりと恐れる」という部分をどう使い分けるか、「経済」と「感染防止対策」の相矛盾するものをどう両立させていくか、という話ですが、一方で、「心の病」が相当進行しているなど感じます。SNS上の投稿を見ていると、早い段階でその都度「あること、ないこと」を書き込んで、もう犯罪者扱いと言いますか、出雲で感染すると住めなくなるという、人権問題もいいところで、すごい話だになっていうのをつくづく感じるとともに、いかに教育が大事かということも感じます。人間は、追い詰められた時は、やはり、周りに攻撃をして自分を守ろうとする意識が働く、というのは、いじめの問題も同じだろうと思っています。

その辺のところをしっかりと変えていく、それは、学校教育の中で、どこまでできるのかっていうのは、大きな課題だろうと思いますし、もう１点、やはりこのコロナ騒ぎの中で、日本という国がいかに「デジタル化」が遅れている国かということが、つくづくわかりました。世界各国では、どこでももっと迅速にいろんな対応ができるのにもかかわらず、先進国と自負しながら、これだけ遅れている国はないなっていうことを感じました。

のちほどまた話がありますけれども、もともと、「デジタルファースト宣言」というものを４月にやろうと思っておりました。コロナ騒ぎで少しずれてしまいましたけれども、これからの方向性というのは、教育の分野だけではなくて、行政、防災、産業振興などのすべての分野における「デジタル化」です。

たまたま新内閣もデジタル庁を作るといっていますが、結局、日本で「デジタル化」が遅れている最たるものが教育界ではないかと感じます。その辺も含めて、生まれ変わるっていうか、従来の発想と全く違う、新しい世界を築くということは、大事じゃないかなと思っています。

今日は久しぶりの総合教育会議で、内藤委員さんは初めてでございますが、どうぞ他の委員の皆さんも、積極的な発言を期待しておりますので、私はしっかり聞き役にまわろうと思っておりますので、よろしくお願いします。ありがとうございます。

(三島部長) それでは早速、協議に入りたいと思います。これからは、本会議の設置要綱の規定によりまして、市長に進行をお願いします。

(長岡市長) それでは協議事項に入りたいと思います。最初の(1)の「学校図書館の現状と今後について」、事務局から説明をした後、それぞれご意見をいただきたいと思います。よろしくお願いします。

(金築課長) 資料説明

◇ 出雲市の現状

- 市立小中学校図書館蔵書冊数、図書購入予算額、活用状況、
学校司書等配置人数

◇ 島根県「学校司書等配置事業」の見直しについて

- 新制度「学校司書等による学びのサポート事業」の内容

(長岡市長) はい、ありがとうございました。この件について、といいますか、学校図書全般について、委員の皆さま方、ご意見ををお願いします。

(内藤委員) 早速ですが、「学びのサポーター」の役割

- ① 本を介した心の居場所づくりや人間関係づくり
- ② 個別の学習支援（漢字の読み方など）
- ③ 知識や考えを広げる図書の紹介
- ④ ICT 機器を活用した学習支援

の、どれか一つを担うという説明がありました。市としては、どの方向をめざすのですか。

(金築課長) この①から④のうちどれか一つをやらなければ、県の補助に該当しないということで説明を受けております。先般8月21日に県からの説明会がありました。この資料は、「R2.2.17 市町村説明資料」とありまして、そのときは配布されただけでよくわからなかったんですが、今後、出雲市として現行の学校司書と読書ヘルパーでいくのか、学びのサポーターも取り入れていくのか、というところは、まだ検討段階にあります。

学びのサポーターを取り入れていくということになりますと、この①から④のうちどれかの業務をやっていかなくちゃいけませんけれども、現在学校司書としてご勤務されている方などに少しお話を聞いてみますと、解釈によってはもう①なんかはすでにやっているという学校もあります。ちょっと難しいと言っておられたのが②とか④、要は、児童生徒に自分が教える立場になるような業務、これについては、ちょっとまだ難しいかなというお話もありました。

ただ、県としては、学校司書さんとか学校図書支援員さんと呼ばれる方に対して、今後、研修を年に何回か行っていくということでしたので、そうした研修を受けられて、これならできそうだなというのであれば、そういったものも選択していこうか

なと思っています。

いずれにしても、学びのサポーターを取り入れるかどうかという根本的なところがあります。

（内藤委員）わかりました。配置されている司書さんの年齢の幅は広いのでしょうか。

（金築課長）年齢的には結構幅が広いです。学校司書の方を、今、小学校17校に17人配置しているんですけども、司書資格を持っていらっしゃる方で、なかなか新たに募集をかけても応募がないような状況でして、それでもなんとか今17人配置できている状況ではありますが、年齢層としては幅が広いですし、なかなか、新たな人材を見つけるのが困難な状況もあります。

（内藤委員）全国的に見ても、人数が少ないっていうことだと思うんですけど、この話を聞いていると、逆に「売り」にすることも可能な気がするんです。だから、このどれを選ぶかによって、市にとって利益のある話にもなりそうな、学習的にも役立ちそうな気もするので、このどれを取られるのかもあるかもしれないんですけど、もう少し幅広く見ていただいて、ICTにしても、選択の余地もあるのかなと。そうすることによって、学習の幅も広がるし、学校との連携も取りやすくなっていくのかもしれないし、僕は、見えてこないものに対して拒絶するのではなくて、もう少しやわからかに受けとめていただくと、多分、これはいい方向に向かっていくんじゃないのかな、と思いました。

（長岡市長）はい。ありがとうございます。教育委員会の方向性としては、①から④までのどれかに限定するという話ではなくて、その4つのうちのいずれかを、それぞれの能力、資質、経験によって分けるという意味ですね。

（金築課長）そうです。

（長岡市長）それから、もう一つ、来年度から県事業が変わるという中で、補助対象時間数と補助率、これは行政側の話でしょうけど、参考までに何が変わるのかというところを説明してください。

（金築課長）それでは、補足して説明します。本説明資料において、新制度では上限が1,400時間、下限が600時間というふうになっておりますが、令和2年度までの補助ですと、上限が1,505時間なんですね。また、下限は今のところなくて、読書ヘルパーさんに対しては、学校図書支援員として、1校当たり年間15万円の補助が出ています。なので、新しい制度になった場合、学校司書さんとしては105時間の時間数減になるか、その部分は補助対象外としてそのまま勤めていただくか、というようなことも考える必要が出てきます。

さらに、補助率なんですけれども、今は、出雲市としては2分の1の補助を受けて

いるんですけれども、新制度で同じように2分の1の補助を受けるのであれば、「学びのサポーター」として設置してください、という説明です。今まで通りの学校司書や読書ヘルパーとして配置するのであれば、市町村への補助は3分の1に減らしますという新制度の仕組みになっています。

（長岡市長） ということで、不足する学校司書予算、処遇面、待遇面で有利になるかというところでもない中で、求められるのは多くなるという話です。水委員はいかがですか。

（水委員） そうですね、予算ということになりますと、それは市としては、県の負担が多いほうがいいのかとは思いますが、ただ、読書ヘルパーにしても司書にしても、本を媒体にして、子どもたちをみたり、あるいは、子どもたちと読書ヘルパーさんとの人間関係を養っていくってことは、おそらく今もできていると思うんですね。この①から④までのどれかをしなければならないみたいな言い方になると、今お勤めになっている方は、「いや、それはちょっと」と思われる方もおられるかもしれませんが、きっとどれかが、すでに今成り立っているのではないかなと私は思うんですよね。この後ICTの話になりますけれども、「文章を読む力」と、「新しいデジタル機械に対応していく力」というこの二つの力は、これからどうしても子どもたちが通っていかねばいけない道だと思うんですけれども、そういう意味においても、せっかく今全校に司書及び読書ヘルパーを置いていただいているわけですから、その力を子どもたちにより密接に生かせるようになっていくような受けとめ方でいかれたらどうかなと思います。

（長岡市長） はい、ありがとうございます。すでに①から④までは、いろんなかたちでやっているという解釈です。ちょっと疑問に思うのは、⑤から⑪までは、いわば必須業務ということですが、⑤から⑪を全部本当にこなしていらっしゃる司書さんっていうのはおられるのかなという素朴な疑問があります。

- ⑤ 言語能力育成をめざした読書活動の推進
- ⑥ 各教科等の授業のための図書資料の収集・整理
- ⑦ 多様なメディア資料の収集
- ⑧ 図書館の基本的機能（貸出、図書整備、蔵書選定、購入、配架）
- ⑨ 読書意欲を高めるための読書活動（読み聞かせ、読書相談）
- ⑩ 図書館便り等による読書啓発
- ⑪ 他の図書館施設との連携（相互貸借、ネットワーク）

（金築課長） ⑧から⑪というのは、これはもうすでに、今の補助対象の中でやらなければならない業務として学校司書さんをお願いしていますし、読書ヘルパーさんについては有償ボランティアの方々ですからお願いベースではありますが、⑧から⑪の業務はやっていただいています。

それで、⑤から⑦の3つはですね、これからの学校司書に求められる業務として、今回県が示している内容なんですが、すべての学校司書及び読書ヘルパーの方ができているというふうに思っています。

先ほども言いましたけれども、やる気のある方というか、できる方々のお話の中では、①から④の中でも、①とか③とかはもうやっていますよっていう方が、まああの割合でいらっしゃると思います。ですので、学びのサポーターとして配置し直すということとは可能かなと思っています。

先ほどの市長の質問、⑤から⑪について皆さん完璧にやっておられるか、ということになると、正確な答えとしては、⑧から⑪は完璧にやっています。⑤⑥⑦は、我々の見た感じでは、どこの学校でもできているのではないかと考えております。

（長岡市長）なかなか人材確保が難しい中でどんどん求めるものは高くなる、待遇はそんなに変わらない、ということでは、なかなかいい人材は確保できないかなという意味で聞いているところです。錦田委員さんはいかがですか。

（錦田委員）今、市長さん言われたとおりのことを思いましてですね、それなりの財源を更に措置して、処遇をより改善することによって「頑張ってくれ」というならば、これだけの業務を与えられるのはわかりますけど、業務だけ増やして処遇改善しなかったら、人間動きますでしょうか。今の司書さんだって、精一杯「居場所づくり」などの①から③までなさっていると思いますが、やるならちゃんとした財源つけて、処遇をちゃんとよくしないと、そう簡単にできないと思います。

（長岡市長）金築委員さん。

（金築委員）この「学びのサポーター」さんは、採用するにあたって何か試験とか基準とかあるんですか。

（金築課長）まだ「学びのサポーター」で配置する、そこまでの議論にはなっていませんが、もし、そのようになるとすれば、公募というかたちになります。当然面接試験を行うことになると思いますが、その時の条件として、今までの学校司書配置のように司書資格を条件としてつけるのかということも、今後の検討課題かと思っています。司書資格をつけるとなかなか応募がない、という現状もありますので。

（金築委員）わかりました。あと思うのが、今、学校に行けない子たちとか保健室登校の子がいると思うんですけど、その子達が図書館に通ったり、図書館で勉強することができるような取組はされていますか。

（松浦次長）例えば、保健室登校のお子さんについては、養護教諭あるいは担当の先

生が、ほかの子とできるだけ触れ合わないような時間帯に図書室に連れていって、その子が興味のある本を読んだり、あるいは、調べ活動に必要な本と一緒に探して、これでやってみようかというような感じで促したりしてやっているケースはたくさんあると思います。

（**金築委員**）そういうかたちでサポートができる方、この「学びのサポーター」とはちょっと違うとは思いますが、心に寄り添うようなサポーターさんも、図書館におられてもいいのかなと思います。私、今、平田高校に伺うんですけど、その司書さんは、生徒がやってくると、本云々よりも人生相談や進路の指導やアドバイスとかされていて、生徒もすごく慕っていて、お姉さんのような存在で、いろいろと相談したら知識もかなり豊富で、私自身もとても頼りにしていて、こういう司書さんがたくさんいらっしゃるいいなと思ってます。今後、そういう、いろんなことを教えてくださるような方がいらっしゃるいいかなという気はしています。

（**松浦次長**）市長さんや錦田委員さんおっしゃるように、今以上の業務を担うのは、かなり負担も大きいんじゃないかなと思いますけど、実際に、学びのサポーターの①から④番のような業務は、読書ヘルパーの方でも結構やっておられます。⑤⑥⑦についても、日常的にやっている方はたくさんおられます。

校長先生は、普段よく学校をまわって授業の様子などを見ておられますが、図書館に行った時に、こういう①から⑦のようなことに出くわすことって結構あるんですよ。

ですから、そうした時に、校長先生などが、「きちんと教えてもらって、本当に担任の先生が助かりました」、「これからも大変でなければ子どもたちをサポートしてもらえると本当にうれしいです」みたいな励ますような声掛けをすると、自然にこの①から⑦の業務についても、「やってみようかな」という感じになるんじゃないかなと思います。ですから、そういう声掛けも、校内では大事なかなというふうに私は思っております。

（**長岡市長**）伊藤副市長さん。

（**伊藤副市長**）もうこの話を聞いたときに、基本的には「制度改悪」だなというふうに思いました。「見直しの理由」に書いてあるように、財源的な話からそもそも制度が見直されているので、確かに10年前に今のこの島根県方式の補助制度ができて、全県的にすごく司書配置やヘルパー配置が進んだのは事実です。出雲市は、最初はヘルパーだけでやっていたので、肩身の狭い思いをしました。

徐々に、小学校については司書を置いていこうということで、今の現状がありますが、10年経って、知事も変わられて、財源的な見地から制度を見直したというようなことで、あまり教育的な意図とか配慮はこの制度の見直しに感じられないというのが正直なところで、我々行政の責務としては、現場の負担が増えないようなかたちで、財源をできるだけ引っ張り出すということかなというふうに今思っています。

よくよく学校現場の声を聞いて、この制度を利用すればいいかなというのが、今の正直な感想です。

（**長岡市長**）教育長。

（**杉谷教育長**）読書活動推進の事業とか、それから学級編制基準の見直しとかですね、先ほど副市長がおっしゃったように、どうしても教育的な意義とか配慮とかっていうものの前に、県全体の財政状況からの見直しみたいなところが、先に理由にくっついてくるので、教育行政に携わっている者としては非常に残念だし、さきほどおっしゃった「改悪」みたいなところを感じざるを得ないと思っています。

県の事業をこちらでも使わせてもらっているのですから、そこは譲って見るにしても、やはり学校にとってこの10年間でどういう成果があって、これから先子どもたちに求められるもの、先ほど水委員さんも少し言われたんですけど、学校図書館の果たす役割っていう中で、子どもたちをどう育てていくか、もちろん図書館だけで育てていくわけではないんですけども、図書館における学習とか、あるいは、そこにある書物を使っての学習っていうものが子どもたちの育ちにプラスに働くには、一体どんな人が図書室にいて子どもたちを支えたらいいかっていうことになるんじゃないかと思っています。

確かに、司書として、図書館の専門的な知識を持っているっていうことは、ある意味非常に大事な部分ではあると思うんですけど、先ほど金築委員さんがおっしゃったように、人間的な要素っていうのも実は非常に大きくて、子どもたちとうまく接していただいて、読書が好きになるとか、図書室という空間が好きになるとか、そういうきっかけになってもらう方でもあるというふうに思っています。

名称はこういうふうな名前が変わっていくんですけども、学校にとってできるだけ活用しやすく、これからめざす教育に支援をしていただけるような、そういう皆さんの配置になっていけばいいかなというふうに思っています。

まだまだ詰めなければいけない部分があることは確かなんですけども、名前が変わって事業が変わったからそっくり変わってしまうっていうことには絶対にしたくないなというふうに思っています。

あとは、ここで言うことではないんですけど、県教委自体がこの学校図書館教育をどういう方向にしようとしているのかっていうところが見えない中で、単純に財源を削ってこういう制度を作ったっていうことなので、ちょっと残念というのが正直な気持ちです。

（**錦田委員**）以前、ふるさと学習の話をこの総合教育会議でさせてもらったときにお話したことで、学校訪問の際に感じたことなんですけど、出雲に関する郷土資料が、学校によってはきちんと図書館に配架されていて、出雲の様々な郷土史に関わるもの、地元の郷土史に関わるもの、それから、ふるさと学習で言えば、日本神話、出雲神話に関するものが置いてあって、いいな、という学校もあれば、児童生徒が借りていてなかったのかもしれませんが、ほとんど置いてなかったり、置いてあってもポロポロであるような、非常に手薄な配架の学校もあるな、と感じました。

確か総合教育会議で私が発言したときに、「できるだけ善処します」というような答えを事務局からいただいたんですね。その上で私この前、学校訪問に少し回ったんですけど、やはり、ふるさと関係の本が、生徒が借りていたのであれば申し訳ないけど、十分じゃないなあということを感じました。

「ふるさと愛しましょう」、「ふるさとに誇りを持って出雲から巣立ってまた帰ってきてね」、などと、いろいろなところの教育方針の中で聞くわけですが、その割には図書館にふるさと学習に利用できる十分な資料がそろっていない、このことはいかなものかなあと感じます。厳しい財源状況もわかりますけども、少しその点留意して配架されるように心がけられたらいいのではないかなということをおもいましたので、この場を借りて、お伝えさせていただきます。

（金築課長） 郷土史の分類の蔵書がどれくらいあるかっていうのは、調べたいと思います。ご指摘のあった件に留意して進めていきたいと思います。ありがとうございます。

（長岡市長） それは、日頃の思いというか、学校の意識でできる話で、指摘された内容がうまく現場に伝わってないというところの話ではないかと思いますので、改善をお願いします。

また、学校図書館の話に戻ることもありますが、とりあえず、2 番目の「ICT の活用について」ですが、「出雲市デジタルファースト宣言について」は、情報政策課長の方から、そして、「学校における ICT 教育の推進について」は、学校教育課長から、それぞれ順番に説明をお願いします。

（三浦課長） 資料説明

- ◇ AI・ICT 等の先端技術などデジタルの力を最大限に活用し、「デジタルファースト」で取り組むことを 6 月 12 日に宣言した。
 - 市民サービスのデジタルファースト
 - まちづくりのデジタルファースト（教育分野を含む）
 - 産業・観光のデジタルファースト
- ◇ デジタルファースト推進計画の策定を進めている。

（金築課長） 資料説明

- ◇ 国の GIGA スクール構想
 - 子どもたちを 1 人も取り残すことなく育成できる教育 ICT 環境の実現
 - これまでの教育の蓄積と最先端の ICT のベストミックスを図る
- ◇ ICT の学びへの活用事例
- ◇ 本市の ICT 教育推進事業
 - 今年度は「準備・整備期」と位置づけ、令和 4 年度からの「発展期」に向け、研修等を進めていく。
- ◇ 「いずもオロチネット」の概要（イメージ）

(**長岡市長**) 説明がありましたけども、使いこなすというか、そういう状況になるには若干時間もおかかると思います。「GIGA スクール」、「ICT 教育」ということで、タブレット 1 台持って学校に通えばすべて事足りるようになるかということ、そこに至るまでにはなかなか時間がかかるようでして、いろいろ課題もあると思います。

先程のあいさつの中で、16 日しか休業しなかったと言いましたが、3 月から早々と休業していた都市部の学校、そういったところは、実は、こういう対応に本当に真剣に取り組んできたんです。逆に、結果論ですけども、わずか 16 日しか休業しなかったことによって、こういった取組への真剣度、というと語弊があるかもしれませんが、必要に迫られてやっているところと、なんか言われたからこれからやろうというところとは大分差ができてきた、そういう思いがありますし、格差社会というか、環境が整っている家庭と、そうでないところとの大きな開きというのがますますあって、その辺に追いつくためには、学校現場でしっかりと、いろんな対応ができるような状況に 1 日も早くですね、4 年と言わず、なってもらいたいということを言いつつ、ご意見を伺いたいと思います。

金築さんは、専門分野だと思います。

(**金築委員**) 私が一番気になるのは、ネットワークの環境を等しくできるかということで、今現在では、ちょっとまだ一斉にやっちゃったらダウンしそうかなっていう懸念があるので、そこが早急に求められる部分ではないかと思うんですけども、非常にこの ICT、興味があって、まだ出雲では取り組んでいる学校が少ないので、ぜひ取り組まれるところがあれば視察に行かせていただきたいんですけども、それが、来年ですかね、今年は機器の設置とかになっていると思うんで、来年早々ぐらいに見てみたいんです。

ただ、タブレットを使う子どもたちのレベルというか、こなせる能力の差があると思うんで、やはり最初は、ここにもありますけども、支援員等の配置っていう部分が非常に重要なことであって、取り掛かりでつまづいてしまうと、その子は嫌な気持ちになってしまうので、等しく同じレベルでスタートできるような環境をまず整えて、大人よりもサクサクとできる子もたくさんいるんですけど、やはり触ったことない子もある程度いると思いますので、そこからのスタートということを念頭に置いた教育をしていただきたいと思います。

あと、特別な支援を必要とする、障がいのある子、耳の不自由な子とかもいると思いますので、そういう子たちに字幕をつけるような何か対応をするとか、やはり健常な子だけではないので、そうした子に対応した教材なり、アプリなりが必要かなと思っています。

(**金築課長**) おっしゃるとおりでして、普段触っている子は、本当にサクサクできると思います。ただ、ご家庭にそういう環境がない子は、戸惑う場面も出てくると思います。そうした差が出ないように、しっかりと職員、指導者側の方の研修も行いながら、子どもたちに対しては「タブレット開き」みたいなかたちで、学習支援ソフトを

入れたもので、これはこういうふうに使うんだよってというのは、しっかりやっていった上で取り組むべきだと思います。当然、特別な支援が必要な児童生徒さんに対しても、それ専用のソフトを入れるとか、そういったことも必要になってくるかと思います。そういったことも今後研究を重ねて、スタートする際には、十分に留意してスタートしたいと思っております。よろしくお願いします。

（金築委員）ありがとうございます。もうちょっと活用が進んでいくと、ちょっと遅れ気味の子たちは、お家で学習の助けというか、誰かとマンツーマンで学習したいということもあると思いますが、先生がそれをサポートするのは時間的に多分難しいと思うので、教師の資格はあるけど働いていない方とか、そういう方たちをお願いをして、お家に帰ってからのサポートなりできるようなシステムもあると、教職員の方の時間短縮になったりもしますし、いろんな人材に働いてもらうということでもいいかなと思ってるので、そういう方向性もまた検討していただけると良いかと思います。

（長岡市長）ありがとうございます。内藤委員さんはいかがですか。

（内藤委員）私も会社で様々なシステムを1元管理できるように、いろんな機械を入れているわけなんですけど、そうすると、一番の問題が、人と人が接する「心」のところがやはり一番ネックになってきてまして、ここをつなぐってというのは、アナログなところをしっかりと作るしかないなと思っています。で、便利になるってというのは、人を減らしていけるというような利点もあるんですが、その人を減らした時に、じゃ、アナログのところがどうなるのかっていう問題点も多分出てくると思います。

それで、先ほど金築さんの言われた、個別学習のところなどは、例えば授業をユーチューブに撮るなり何かして、それを流して、わからないところは先生に聞くとか、そういうやり方もやっていけると思います。もう一つ言えば、先ほどの図書館でも、読み聞かせの部分はユーチューブに撮っておいて、入りたい人が入ってくればいいよ、という話もできると思います。

ただ、そこで一つ気にかかるのが「心」のところなので、そういった面も気をつけられてやられた方がいいんじゃないかなと思います。

（杉谷教育長）とかく、デジタルのところに目が行きますが、これから Society5.0 に向けては、そこに対応できる能力のある人材を育てていくっていうのが前面に出すぎると、先ほどおっしゃったいわゆる人と人との関わり、繋がりみたいなところが本当になおざりにされていくんじゃないかって心配をすごくしています。

ですので、学校の中の授業は、すべてがこのタブレットとかデジタルになっていくわけではなくて、より効率が高いとか、あるいは、同じ時間内であっても繰り返しのことができるとか、あるいは、記録するのに便利だとかっていう場面、目的で、こちらがいいっていうものはデジタルの方で対応していく、それ以外は、学校は対面で人を育てていく場なので、単にコンピュータが使える人間を育てていくっていう話では

ないですから、国はハイブリッドっていう言葉を使ってるんですけど、そのハイブリッドも、50対50じゃなくて、割合はやっぱり、人対人の方にあるのかなと。そうしないと、学校の存在意義がなくなってしまうとかですね。ですからそこはしっかり考えていく必要があるなと思っています。

ただ、これだけ、国の予算もそうですし、市の予算も使って整備をしていただくので、「それにみあった」という言い方はちょっと言葉的にはどうかかわからないですけど、成果を上げていかなきゃいけないっていうのもあって、国の方は、学習指導要領改訂の中で、情報活用能力を今後しっかりつけていくんだということと、それに合わせて言語能力っていうことを言っています。この二つが子どもたちに身に付けさせるべき大きな資質能力だと言っているの、それはデジタルを使おうが対面であろうが、やはり育てていくべき能力だろうと思っています。

もう一つは、このGIGAスクール構想をいろいろ考える中で、そういう能力がついたかどうかをどうやって見るかっていうところが本当はあって、お金かけて整備しました、使いました、で、子どもがどうなったかっていうその検証をどういう方法でできるのかなっていうところを、ちょっと今興味を持っていろいろ資料も集めながら考えているところです。

極端な言い方をすると、今、国も県も市も学力調査で、国語、算数、理科、やっていますけど、果たしてその調査でそれが計れるのかって言われると、ちょっと私自身は疑問に思うところもあって、そういう検証方法も含めて、この大きな財源を使った効果っていうのは見ていかなきゃならないなというふうに思っています。

（長岡市長）我々としては、タブレット一人一台必要だということで、最終目標はそこだけ年次計画でやっていこうと思っていたところへ、コロナ禍という状況があって、一気にやろうという話になったところですが、過去の話を見ると、最初の頃、各学校全てにコンピュータ教室を設置するというので、あの当時としては結構な負担でありましたが、その成果が振り返ってみるとどうだったのか、今の時代に繋がっているとえばそれまでですが、時代とともに最先端のものを入れなさいという方針が出て、一斉に取り掛かって、そこには教える側も含めてなかなかついていけない人もでてきて、そういったことを繰り返しながらきています。

ただ、この業界というか、タブレットにしてもコンピュータ関係はすべてそうですが、数年するともうただのガラクタになってしまうという、で、どんどん更新していく必要があるということと、教育的効果、成果がどうかと、その辺はなかなか難しいところであります。ほかのみなさんはいかがでしょう。

（錦田委員）最初の予算の話の時に、教育委員会の定例会でもお話ししたんですよ。決して足を引っ張るつもりはありませんし、大事であることはわかるんですけど、こうした話は私はいつも懐疑的に見えています。

税金が投入される話なので、立ちどまって考えることは本当に大事で、もちろん活用していくことを全否定はしません。社会がそちらに向かっていることは間違いないんですけども、やはり、教育長が言われたように、教育って「人づくり」ですよ。

そう考えたときに、「最先端のものが入りました」ということで、すぐに何でも「これいいですよ、取り入れてやってみましょう」ではなくて、我々教育行政に携わる者は1回立ちどまって、国は予算をつけるけども、先を見通して今子どもに伝えるべき内容はどこなのか、どういう活用方法、どういう教育効果をねらったところに集中的に力を注いでいくべきかっていうことを、あくまでも使う側、教える側という自負を持ちながら取り組んでいただきたいな、という強い思いがあります。

それともう一つ、ネットをめぐっての事件が多発している状況があって、加害者になる場合もあるし、当然、被害者になる方が多いのかもしれませんが、今日の説明の中にもありますけども、ぜひ、幼少期からの情報モラルの教育というあたりはお願いしたいと思います。

いずれにしても、あまり全面的に信頼しないで、ちょっと斜に構えながら、立ちどまって考えるという視点は、どこかに必要ではないでしょうか。

(水委員) 私が教育委員をさせていただいた頃から、教育界は、「働き方改革」と「ICT導入」、この2つについて、ずっと、いろいろな場で見聞きして議論もしてきたんですけども、ここに書いてあるように、「多様な子どもたちを誰1人取り残すことなく、公正に個別最適化され、資質・能力が一層確実に育成」できれば大変よい、それは誰も思っていると思うんですが、私は、個人的な意見としては、小学校1年生が入学して、まず、40分とか45分机に座る訓練から始めなければいけない状況がある中、タブレットをおもちゃ代わりにして、教員がいきなり「学級崩壊」と叫ぶようなことにならないことを願います。

もうひとつ、私たちは、初めにアナログありきで、後にデジタルを知った世代ですけども、今の子どもたちは、生まれてすぐにデジタルに触れておりまして、子どもの方がよっぽど対応力はあるかと思います。片や、それを道具として使う教員の方の負担を考えますと、私は、令和3年度で活用ができるという目標を立てておられますけれども、もう少しじっくり、考えていただいた方がよいのではないかと思います。教育現場の混乱、もしくは費用のこともそうですけれども、いろいろな意味で、今、目の前にぶら下がっているものに、ただ飛びついただけで終わらないよう、考えていただきたいかなと思います。

(松浦次長) GIGA スクール構想が打ち出され、何か教育がデジタル機器一色に染まって、そういう方向で進んでいくんじゃないかというようなイメージを持たれるかもしれませんが、最初に金築課長が説明しましたように、これまでの教育実践の蓄積、要するにこれまで「よい」とされてきた、「アナログによる教育のよさ」、これはもう、もちろん、捨てずにやって、そして、ICTを使うことでより効果があがる、あるいは効率的、あるいは子どもにとって興味関心が高まる、そういう場面において、このICTをどんどん使っていこうというようなことだと思います。

基本は、やはり人と人との関わりによる教育だと思いますし、それを助けていく一つの道具としてICT機器があるというとらえ方を、我々はしていかなければいけな

いかなと思っております。

先ほど水委員さんが1年生のことを言われましたけど、やはり入門期に関しては活字にしっかりと親しむとか、あるいは、そこから友達と交流活動をしながら、お互いいろんな意見を言い合ってコミュニケーションを深めていくとか、そういうことが人間として一番大事な基礎の部分だと思いますので、その部分をきちんと押さえた上での「ICT」というところを出雲市としてめざしていくべきじゃないかなと思っております。

（**杉谷教育長**）不登校の児童生徒数っていうのは、減っていない状況がありますし、その予備軍もそういう状況です。教育支援センターでは指導員さんに指導はしていただいているんですけど、例えば、遠隔的なツールを使うことによって、自分がもともと在籍している学級の授業の様子を見るとか、家庭でもそういうことができていく中で、学校復帰に繋がっていただければいいなと思うし、逆になかなか教員が家に行っても会えない子たちもいるんですけど、最初は顔を映さなくても声で、とか、そういう繋がりが持てる一つのツールになってくれればいいなあとという思いもありますし、それから学校に来て教室に入れない子もいて、先ほど図書館での状況はっていう質問もあったんですけど、別室にいる子たちが、自分のクラスの授業を離れた場所で見られていることによって、学級へ上がってみようかっていう気持ちが出てくれればいいかなとか、少し、学校に行きにくい、あるいは教育に入りにくい子たちにとって、これがうまく使えないのかなということやら、それから、私の前任の塩冶小学校には、島根大学医学部附属病院の院内学級があります。結構、市外の学校から入院ということで転校してきて、塩冶小学校や第二中学校の児童生徒になるんですけど、本来は、病気を治して帰っていく学校があるんですよ。その学校との縁がすごく薄くなってしまっていることを感じていて、それはもともとの在籍校の先生たちが、アクションを起こしてくださればいいけど、籍が変わってしまうことで、その意識が非常になくなってしまいます。ですので、こうやって、日本国中というか、あちこちでこうした体制が整ってくると、そういう繋がりも持てるのかなあとあったり、いろいろなところで、個別に対しての可能性がいろいろと考えることができるなと感じます。単に教室の中での一斉授業の中でっていうことだけでなく、むしろ、言葉としてはふさわしくないかもしれませんが、「弱い立場にいる子たちの繋がるツール」としては、可能性を感じるなということを思っていて、その辺りも含めて、これから導入していくものの活用については、いろいろ試してみたいし、成果が上がってくればな、という思いも持っています。

（**伊藤副市長**）教育長さんや次長さんがおっしゃるようなかたちで、使っていただければ幸いだなと感じます。5、6年で20億円というお金をかけるわけですから、「GIGA」と「スクール」を掛け合わせた名称は少し疑問に思っておりますが、文部科学省なのか、経済産業省なのか、どちらがつけたのかはわかりませんが、うまく

使っていただきたいと願うばかりですね。

（内藤委員）先生たちの働き方改革は重要で、ストレスをかけるのは違うと思いますので、便利になる方向性に向かっていけない中で、取り組む期間が短いと、どうしてもストレスが溜まっていくというところはあると思いますので、時間の猶予をしっかりと持っていて、ストレスをためずに、より良い方向に向かっていていただければなと思います。

（長岡市長）なぜ私が「デジタルファースト」に取り組むか、というと、今から4年半前でしたか。グーグルジャパンに陣内さんという方がいて、「観光を世界に情報発信するには」、という話をしたら、いろいろと指南してもらって、それからずっとおつき合いをして、「特別顧問」という名刺も作り、何回もこの出雲にも来てもらって、彼をアドバイザーにしながら、もっと先へ行こうという話を進めてきた経緯があります。少なくともあの時には、日本海側の都市でデジタルファースト宣言しようという都市はありませんでした。それまでやっているところは太平洋側、それも愛知県中心にいくつかの都市が、という状況でありましたので、それに負けずに、という気持ちで進めてまいりました。

ところが、その後コロナウィルス感染症の拡大があったところで、陣内さんには、最後に2月か3月に、渋谷へ本社が移転したあと、新しい本社を案内してもらっていますが、彼らには就業時間というものがないんです。午後3時に1回連絡する義務があるだけで、どこで何をしようが関係ない。それでいて、成果については厳しいチェックがある、毎日出社してやったふりをしていた方がずっと楽だという話です。おそらく在宅勤務をしている人はほとんどそういう働き方で、「しぼり」がない状態で評価をされるというのはおそろしいことでもありますけども、そういう時代が来ているのかなという、ちょっと怖いような気がします。

先ほども言いましたけど、都市と地方の格差についてハンディはないという意見もあるけど、実は大きなハンディが最初からある。で、更に差が広がるということにおいては、教育現場も一緒だと思います。都市部の学校などは、ICTをフル活用してどんどん進めていますので、今から3～4年かけてやりましょうという話をしているところとは、スタート時点から大きな差ができています。そこのところをどう補っていくのかといいますか、逆に「後発の強み」というのは何かないかなと思いますけどね。周回遅れというのは、先頭に立つ可能性もありますからね。

菅さんが急に「デジタル庁」ということで、やはり日本という国が「よっぽど」というところに気づかれたという事ではないかと思いますが、我々は変な情報に騙されていて、日本は、世界から見たら完全に後発もいいとこで、それを何か勘違いしていて、いかにも、世界の先進国の、と言っておるけど、後進国に既になっている。でも、後進国の強みといいますか、アナログの世界の方がかえって先回りして時代を先行できるということもあるかもしれません。

ということで、これもきりがいい話でしょうけど、せっかくの機会ですので、この課題だけではなくて、なんでもお話しただけたらと思います。

（錦田委員） 学校の現場の先生方の働き方改革、我々教育委員会でもいろいろ議論させていただきました。

このほど学校現場を回った時に、教育長さんと部長さんと、確か車の中での話だったと思うんですけど、コロナ禍で逆に増えてきたものがたくさんあるんじゃないかという話をされたと思うんですね。私も同じことを感じていて、本当に必要な研修なのか、本当に必要な会合なのか、立ちどまって考えるいい機会を、逆にこのコロナ禍でもらったんじゃないかと思うんですね。

今回、本当に必要なことだけ先生方が取り組んだことによって、子どもとの接触時間が非常に増えた、というお話を随所で聞きます。「災い転じて福となす」ではないんですけど、今回増えてきたものが多々あると思いますので、もう当然お考えだと思いますけど、こういう機会に思い切って、本当に必要な研修はなにか、今やらなければいけない施策は何か、整理していただきたいと思います。今回のコロナ禍で見えてきたものを、ぜひ次の施策に生かしていただきたいと思います。そうすると、おそらく学校の職場の先生方も、もう少し業務過多から解放されて、子どもと接する時間も増えて、デジタル機器もうまい具合に使う中で、日々の余裕もでてくると思うんで、今回思い切って、不要な研修とか不要な会合をなくす方向で、ぜひ検討していただいたらどうかと思いました。

（三島部長） 車の中でお話をさせていただいたというのはよく覚えております。「出雲市教職員多忙化解消プラン」というものが、今年度で期限を迎えるため改定をしなければいけないんですけども、コロナウィルス感染症の関係があって、1年延期をしまして、もう少し様子を見ながら、思い切った見直しができないかということのを少し時間をかけて検討していきたいというふうに今、考えております。

あと、来年度予算編成がそろそろ近づいてきますけれども、これも私の個人的な思いですが、今年、時期の変更とかやり方とかについて、何の工夫もせずにやらなかった会議、研修については、基本的にはなくす方向で見直しをかけていったらどうかというふうに今考えております。中には大事なものもあってですね、その中で、当然教育的意義といったものについては十分検討しなきゃいけませんけども、今回こういった、そういう見直しをかける機会を与えられたというふうにとらまえて、少しそのあたり切り込んでいけたらな、と思っています。

（錦田委員） ぜひ、その方向で考えてさしあげるとよいかと思います。学校の先生方の現場でのご苦労、次から次へと、何から何まで、ということのを、本当に私教育委員をやらせてもらってまざまざと感じましたので、ぜひ、前向きに検討していただきたいという一方、やはりやめたけど必要だったということも当然ありますので、これまた前例踏襲主義に陥らないように、「あれは1回廃止したので廃止」ではなくて、常に柔軟な発想でもって臨んでいただきたいと思います。おそらく、そのために人事異動で職員さんが変わられると思いますので、新しい発想でもってまた次に向かって改善していく

ことで対応していただけるとありがたいなと思います。

(杉谷教育長) 市長の挨拶の中で、16日休業して授業が欠けたという話がありましたが、校長先生方の話を聞くと、結果的に1学期の夏休みは短縮しましたが、短縮せざるを得ないほど授業時数がひっ迫して確保が難しかったってということではなくて、かなり余裕を持って夏休みの短縮ということがあったということでした。

それは何かと言いますと、行事を中止したり延期をしたってということもあるんですけど、研修とか会合がなくなったりということで、これまで以上に1学期は外に出ることがなくて、むしろ授業に集中できたとか、子どもに向きあうことができたっていう声をたくさん聞きました。

学校の中にあっても、今までのやり方を、「前例踏襲」とは言いませんが、「毎年こうやってきたから今年も」みたいなところでいたものを、今、運動会のシーズンですけど、やはり何を大事にすべきかとかですね、もっと言うと修学旅行も本当に今まで行ってきたところへ行かないといけないのかとかですね、そんなことも含めて本当に考える年になったと思っていますので、先ほど部長も申しましたが、いろんな面で、今年があって来年にそれを生かせるようなかたちで、いろいろ検討してみたいなと思っています。

(長岡市長) 私事ですが、例年ですと、年度末から新年度にかけましても、各種会合、会議、会議、という生活をずっとしてきたものが、本当になくなってしまいました。3月から私は上京もしていません。会合も、考えてみればすべてなくても別に支障がないのではないかというか、むしろ空気としては、ない方が楽でよいのではないかという方向に世の中が流れています。いろいろなところで、行事をあれもこれもやめろとか、現状、「コロナ禍」という理由でなんでもかんでもやめてしまおうという、むしろその方が楽だから、ということが多いように感じます。不思議な話ですけどもね。

「流れ焼香」もそうですけれども、これをまた再開するといったら、なかなか勇気がいるなど、会議も同じで、ないならないで別に死ぬわけではないし、本当に困るというものでもない。「不要不急」とかいろんなこと言われますけど、結局、我々の価値感でいうと「あのムダが大事だ」ということもありますけど、市の仕事だって、前例踏襲で過去こうだったから、前年度こうだったから、という発想だけれど、それは改めてもらいたいという話はいつもしていますけど、なかなか変えられなかったんですね。

このコロナ禍というのはそういう意味ではチャンスであると思いますし、いろんな企業を見ていまして、このピンチを逆にチャンスに変えている皆さんというのは、すごいなと思いますし、教育界もピンチをチャンスに変えてもらいたいと思います。ほかはいかがでしょうか。

(水委員) 全く今日の議論と、関係がほとんどないかもしれませんが、夜間中学というものが今すごく注目されていると聞きます。「夜間中学」という言い方については、すごく時代を感じさせるな、とは思いますが、やはり、多様な学び

ってということで、それは動画配信をしてしまえば終わりかもしれませんが、外国人の方がたくさん入ってこられたり、あるいは、学齢期に十分な学びができなかったということで、もう一度学び直しをしたいとか、いろいろな方がおられると思うんですね。私は、そういう方たちの一つの場所として、人種とか年齢とか性別とか全く関係のない教育の場所ってというのが出雲市にできるとすばらしいかなと思います。他の自治体の夜間中学のことを取り上げた報道なんか見聞きしていますと、素晴らしいなと思うんですね。確かに、人と人が出会うっていうのは、今いろいろな行事とかもどんどん中止されて、エネルギーのいることですよね。ただ、やはり、多様な人間関係において人間は成熟していくものだなと私は思っていて、子どもたちだけではなくて、そういう場所があるといいかなと、一言すいません、私の意見です。

（**杉谷教育長**）公立となると、教員を誰が配置するかっていうと、今のシステムだと県教委がそれをやらないと設置はできないと思うんです。

ただ、全国的には、民間で、それこそボランティアで教えているっていうような、「夜間中学」という名前ではないと思いますけども、そういう施設を設置しているところはありますけど、それは公立ではない。公立のところは、やはり県が主導してやっています。国は、各都道府県に1校ずつは、というようなことを言っているんですけども。

（**長岡市長**）予定の時間も来たようでございます。本日は、第1回出雲市総合教育会議、ありがとうございました。いろいろな課題がありますが、あまり形式ばらずに今後もお話ができればよいと思います。事務局へお返しします。

（**三島部長**）それでは、以上で、第1回出雲市総合教育会議を閉会します。ありがとうございました。

16：57 閉会